ー 70 周年に向けて思うことー

「創と知の出合い」

茨木美術協会
会長　木村 光佑

茨木美術協会は、２年後の２０１９年に創立７０周年を迎えます。

創立時の精神を踏まえ、歴史を重ねてきました。世の中の動きに合わせ、少しづつ変化して今日に至っています。

７０周年を迎えるにあたって、その存在を改めて確かめてみたいと考えています。

社会は、この２０年ほどの間に、大きく変わりました。今や、インターネットを使えば瞬時に多くの情報を入手できます。

携帯電話を使えば一瞬の内に、どこからでもすぐに連絡がとれます。

テクノロジーの進化で私たちは、いろんな恩恵を受けました。しかし、失ったものも多いのではないでしょうか。

情報の中には、間違ったものもありながら信じてしまいます。すぐに連絡がとれるということは、連絡される側としては、それに備えていなければ仲間から外れることになるかも知れないという恐れがあります。

世の中が便利になって、個人化が進みました。家族や知人と一緒の時にもスマホを手に、思い思いに時を過ごす若者も増えています。

芸術は知恵と知識を持って考えて、脳を使って表現します。

現代は、デジタル技法も重要な表現の手段です。

美術協会が７０周年を迎えるにあたって、どのように今の社会に対応していくのか、７０周年まで少し時間の余裕もありますので、会員の皆さんを含め多くの方とと共に、考えていきたいと思っています。

「創と知の出合い」を、今のこの時代にこそ、大事にしたいと考えました。

創はもの作り（芸術）、知は叡智です。

芸術は他を思いやり、痛みが分ってこそ、その表現されたものが、感動をあたえるのです。

叡智をもって地域社会に接し、貢献したいと考えています。それが美術協会の今後に結びつくのではないでしょうか。

多くの意見を望みます。

会長の言葉

■おぴにおん・提言 1■

「節目」ついて考えてみませんか？

デザイン部　北井　勲

2017 年の元旦に日がな一日、折り紙と格闘していました。実は昨年の暮れに年賀状の準備が出来なくて元旦のゆったりした気分の中で考えようと思ったからです。

おかげでこの「節目」というフレーズが出てきました。折り紙を折りながら、正方形の紙を一折一折積み重ねることで無限の表現が成されています。

日本の文化の積み重ねを象徴しているかのようにも思います。

一折、一折、節目を考えて積み重ねていけば新たな到達点が見えてくるのではないかと…。

１９４９年に茨木美術協会が発足して６８年を迎えることになりました。１９４８年に茨木市制も施行され一足早く今年、市は７０周年を迎えることになりました。

一年遅れての**美術協会は７０周年**ということになりますが、茨木美術協会・茨木市・関連部門を立体的に繋ぐ芸術文化都市に相応しい活動を行い、市民に親しみ、愛していただける茨木美術協会に生まれ変わりたいものだと願っています。

そのためには、まず作品の在り方もさることながらプレゼンテーションの方法も変えてみたいと思いますが、どうでしょうか？

作品はクリエイターが個々に制作していますが、ともすれば創作者本位のものになりがちでは無いかと、思っています。

一■作家ファーストから市民ファーストー　へ、　現在は残念なことながら、部門の都合、作家の都合での創造活動に終始している状況では無いだろうかと、創作の基本は一般の皆さんの感動して戴くことが基本となるのだろうと思います。

誰のために？ 何のために活動するのかを創作者はそのコンセプトを明示しなければならないのだと思うのですが？　どうでしょうか？

opinion no2